

トランプ大統領の就任演説における言語表現とラポールマネジメントストラテジー ラポールの方向性に注目して

著者	渋沢 優介
著者別名	SHIBUSAWA Yusuke
雑誌名	東洋大学大学院紀要
号	54
ページ	439-455
発行年	2017
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00009721/

トランプ大統領の就任演説における言語表現と ラポールマネジメントストラテジー ——ラポールの方向性に注目して——

英語コミュニケーション専攻博士後期課程満期退学
渋谷 優介

1.はじめに

2017年1月、第45代アメリカ合衆国大統領にドナルド・トランプが就任した。公職経験のない、そして初の実業界出身の大統領である。度重なる暴言、いわゆる「トランプ発言」が問題視されながらも支持者を拡大させ、結果的に大統領の座に就いた。就任演説（Inaugural Address）では、「アメリカ・ファースト」（米国第一主義）を掲げ、アメリカ再建のために今こそアメリカ国民が力を合わせ、団結すべき時であると述べている。

一方で、メキシコからの移民を犯罪者と呼び、就任直後には、メキシコとの国境に「壁」の構築を表明したり、テロ対策としてイスラム教徒の入国制限を主張したりと、いわゆる「トランプ発言」は、人種差別主義（racism）をも助長させかねない。多人種、多文化、多宗教国家であるアメリカの様相は「サラダ・ボウル」等の比喩で表されるが、特に人種間の融和、協調を揺るがすような「トランプ発言」は、争いの危険因子になり得る。

オバマ前大統領は、具体的固有名詞を挙げての非難は断固拒否したようであるが、トランプ大統領は実際、就任演説の中で、“We will reinforce old alliances and form new ones and unite the civilized world against radical Islamic terrorism, which we will eradicate completely from the face of the earth.”「我々は古い同盟関係を強化し、新たな同盟関係を作り、文明世界をまとめ、イスラム過激派のテロに対する。そして地球上から完全に絶滅に追い込む（筆者訳）」と具体的に固有名詞を挙げ、イスラム過激派のテロに対して攻撃的に非難している。

CNNの調査によると、就任直前のトランプ大統領の支持率は40%台であり、不支持率は50%台であった。オバマ前大統領の政権発足当時（2009年）の支持率が84%であったことを考えると、トランプ大統領の支持率（発足当時）は非常に低い。しかしながら、選挙戦を通してこれまでの政治未経験をアピールしながらも、既存の政治に不満を持つ有権者にスピー

チを通して強く訴えることで、最終的には形成逆転を成し遂げた。

いわゆる「トランプ発言」により、民主党支持者を含む多くの人からの反発も受けた。人のことば（言語行動）は、対人関係に影響を与え、良好な関係を築く場合もあるが、結果としてマイナスに作用する場合もある。国民との間に良好で調和のとれた関係を構築することが望ましいのは言うまでもない。本稿での目的は、一連の「トランプ発言」にも関わらず、支持者を拡大させ、最終的には形成を逆転させたトランプ大統領の「言語行動」について、就任演説でのスピーチ原稿を基に語用論的視点から分析することである。

2. ラポール関係の構築とラポールマネジメント

本章では、ラポール構築における基礎概念と、その枠組みについての概略を、特にHelen Spencer-Oatey（以下Helen Spencer）の提唱するラポールマネジメントの観点から提示する。

言語行動が持つコミュニケーション上の役割には、「情報の伝達」に加え、「社会的関係の維持・管理」も挙げられる。前者の目的は「正確な情報伝達」であるのに対し、後者は「参与者間での良好な関係の構築」である。本稿では特に、「社会的関係の維持・管理」の側面からの分析を試みる。

対人コミュニケーションにおける信頼関係の構築には、適切なコミュニケーションスキルを要する。そのうちのひとつに、「ラポール」が挙げられる。ラポールとは、良好な人間関係を構築し、互いに信頼し合い、相手を受け入れている状態である。ラポールを築くことでコミュニケーションが、より効果的に行われると考えられる。

一般に、ラポール構築のためには、（1）相手をよく観察すること（2）相手との共通点を見つけること（3）相手に思いやりを持つこと（単に相手を否定するだけではなく、受け入れる）（4）相手の意識や経験を共有していることを相手に示すこと等の方略が挙げられる。

言語行動を通じた良好で調和的な人間関係の構築には、ポライトネスの概念も大きく関与する。ポライトネスについては、様々な理論や枠組みが提唱され、これまで多角的に研究がなされてきた。語用論の観点から体系化を試みたのは、Lakoff（1973）、Leech（1983）らが挙げられるが、今日この分野で最も影響力を持ち、総括的にポライトネスの原則を提唱しているのは、Brown&Levinson（1978）（以下B&L）による理論である。

ポライトネスに付された「丁寧さ」や「礼儀正しさ」といった訳語による混乱もあるが、ポライトネスとは一種の接遇表現であり、表現自体というよりはむしろ、ある表現が使われる場面、状況の問題であるといえる。つまり、社会的コンテキストと相互作用することで、ある表現が「適切（丁寧）であるか否か」の判断がなされると考えてよい。

B&Lの理論では、フェイス（face）⁽¹⁾を主要概念と捉え、参与者間のフェイスを維持することで適切なコミュニケーションが成立するとされる。このフェイスを脅かす行為をFTAs

(face threatening acts) と呼び、ラポールの構築のためには、一般にFTAsをなるべく避け、その度合いもできる限り軽いものにすることが望ましい。

フェイスを厳密に定義することは困難であるが、人の価値観、尊厳に大きく関与するものであるといえる。一般にフェイスの侵害は、精神的な苦痛を伴う。B&Lは、お互いのフェイスを維持することが、参加者の最大利益になると述べている。言い換えると、適切にフェイスを維持・管理することにより良好で、調和的な人間関係が構築できるといえる。

確かにフェイスという概念も良好な人間関係を構築するための要素ではあるが、それはラポールの一部であり、フェイスには個人的要素が強く反映される。つまり、ある言語行動に対して、フェイスを侵害されたと感じる人もいれば、必ずしもそうは感じない人もいるであろう。本稿では、就任演説をより包括的にラポール構築という側面から分析するが、ラポールマネジメント理論においてもフェイスの果たす役割は大きい。

B&Lは、発話行為自体が少なからず相手のフェイスを脅かす行為であるとしている。このことは、言語行為自体が結果的にラポールにも何らかの影響を与える可能性があることを意味すると考えてよい。

Helen Spencerは、次の相互的に関連する領域が、ラポール関係の維持・管理において重要な役割を果たすと指摘している。

- (1) 発語内行為の領域 (illocutionary domain)
- (2) 談話の領域 (discourse domain)
- (3) 参加・関与の領域 (participation domain)
- (4) 文体論の領域 (stylistic domain)
- (5) 非言語の領域 (non-verbal domain)

言語は一般に、ラポールの維持・管理に有益で最大利益をもたらすような言語的オプションを有しており、一例を挙げると、(1) 発語内行為の領域では、イントネーションや声の調子、語彙の選択、呼びかけの表現等がそれに該当する。また、(3) 参加・関与、(4) 文体論の領域では、方言の選択、語彙の選択、統語上の選択等が対人関係に大きな影響を与える可能性がある。とりわけ、発語内行為の領域では組織的な研究がこれまでなされてきており、特に表現についての分析が数多くされてきた。⁽²⁾ ラポールマネジメントの他の領域におけるストラテジーの研究は、発語内行為の領域における研究ほど組織的にされてきてはいない。しかし、(2) 談話の領域では、交感的雑談 (phatic talk)、(3) 参加・関与の領域では話者交代 (turn-taking) に関する研究もなされている。

ラポールマネジメントにおけるストラテジーの研究は、多角的になされてきたが、ストラテジーの使用に影響を与える要因として、Helen Spencer (2004) はラポールへの方向性 (rapport orientation) という概念を挙げている。これには、基本的に2つの方向性、即ち、(1) 自分のフェイス及び社会的権利をサポートしようとする方向性と、(2) 相手のフェイス

及び社会的権利をサポートしようとする方向性があるが、これに相互サポート (mutual support) という方向性を加え、3つの方向性を提唱している。

ポライトネスとはある種の接遇表現であり、表現自体に「適切さ」、「丁寧さ」があるわけではないので、体系的に分析がなされてはいるが、どの場面にも通用するような普遍性を持つ言語表現があるわけではない。言い換えると、適切であると思って使用した言語表現であっても、必ずしも有益であるとは限らない。

(就任) 演説という場は、「一对多」という状況を伴うので、双方向的なコミュニケーションがなされるわけではない。ラポールマネジメントを考慮し、より良好なラポール関係を構築したうえで国民に訴える必要がある。

発話行為自体が何らかのフェイス侵害行為であると考えれば、その度合いが少なければ少ないほど望ましい。そこで、Helen Spencerは先に挙げたラポールの方向性をより分化させた、次の方向性を提唱している。即ち、(1) ラポール増進的方向性 (rapport-enhancing orientation)：参与者間の調和的關係を強めたり、高めたりしようとする欲求、(2) ラポール保持的方向性 (rapport-maintenance orientation)：参与者間の調和的關係を維持または守ろうとする欲求、(3) ラポール無視的方向性 (rapport-neglect orientation)：参与者間の關係の質に対する興味や関心の欠如、(4) ラポール挑戦的方向性 (rapport-challenge orientation)：参与者間の調和的關係に挑戦したり、悪化させたりしようとする欲求である。

コミュニケーションにおいて、(1)「ラポール増進的方向性」をとる場合、調和的關係の増進 (例えば有効的な關係を築きたい、純粹に好意を伝えたい等、良好な方向への変化) を望んでいるという点が根底にある。相手のフェイスを尊重することは、良好で調和的關係を築くために重要な手段の1つでもある。

(2)「ラポール保持的方向性」をとる場合は、何らかの変化を期待するというよりはむしろ、ラポール關係の保持に主眼が置かれる。多くの場合その様相は、「呼びかけ語」等の言語使用域 (resister) に反映される。B&Lは、発話行為は本質的にフェイスを脅かす行為であるとしているが、これには「命令」(orders)、「批判」(criticism)、「不満」(complaints)、「不同意」(disagreements)、「脅迫」(threats)等の発話行為が挙げられる。これらの発話行為によって引き起こされる否定的な効果 (フェイスの侵害) をラポールマネジメントにより最少化させることも期待できる。

(3)「ラポール無視的方向性」をとる場合、その人が参与者との關係の質にほとんど関心を持っていないと考えられる。その人の関心が何か別のことに向けられていると考えられる。または、ラポールを維持するということよりも自身のフェイスの保持に関心を持っており、例えば、ある発話行為 (謝罪等) が、聞き手よりも話し手のフェイスを侵害するものである可能性が高い場合、聞き手とのラポール保持というよりは、自分自身のフェイスの保持に強

い関心が向き、このような場合、結果的にラポールに対する方向性は無視的なものになる。

(4)「ラポール挑戦的方向性」をとる場合、相手との調和的關係性を望んでおらず、悪化させることを望んでいる可能性もある。自分の個人的独立、主張を強くしたり、報復等を意図している場合もあり得る。動機がどのようなものであれ、相手とのラポールを悪い方向へ変化させることを望んでいるという点が共通部分にあると考えられる。また、ラポールを悪化させる1つの方法は、故意に相手のフェイス侵害行為を行い、フェイスを失わせることである。

3.スピーチ分析と考察

一般に就任演説では、これまで自分の支持者ではなかった国民にも支持を訴え、国全体が団結する方向性へと導くよう努めるのが慣例である。(この点で、選挙戦中に行う大統領「候補」としておこなう演説とは性格が異なる)しかしながら、トランプ大統領の場合、内容面では、全国民に向けたメッセージというよりはむしろ、主に自身の支持者に向けた、選挙戦中のような特性を持つ内容であったと考えられる。

確かに、主にこれまでの支持者に向けたであろう内容が目立つ演説であったが、アメリカ・ファースト(米国第一主義)というスローガンの下、国全体を団結に導くような表現も認められた。

本章では、就任演説にて発信された国民へのメッセージの中で、どのようなラポールマネジメントストラテジーが用いられているか、特にHelen Spencerの提唱する「ラポールの方向性」に注目して分析を行った。分析にあたっては、朝日出版社『CNN English Express』からスピーチ原稿を入手し、意味段落ごとに考察を試みた。

トランプ大統領の就任演説は、(1) 国家の再建に向けて、(2) 国民のための国づくり、(3) アメリカの現実、(4) アメリカ・ファースト、(5) アメリカを再び偉大な国に、におおよそまとめることができる。(便宜上、段落に番号を付し (1): 第1段落、第2段落 (2): 第3段落～第9段落 (3): 第10段落～第13段落 (4): 第14段落～第20段落 (5): 第21段落以降、最後までとした。上記の段落分類、見出しは、筆者が意味段落を中心にまとめ、つけたものである。本稿では、特に (2)、(3)、(4)、(5) を中心に分析した。

3.1 「国民のための国づくり」

1. Today's ceremony, however, has very special meaning, because today we are not merely transferring power from one administration to another or from one party to another, but (1) we are transferring power from Washington, D.C. and giving it back to you, the people.

2. For too long, a small group in our nation's capital has reaped the rewards of government while (2) the people have borne the cost. (3) Washington flourished, but the people did not share in its wealth. (4) Politicians prospered, but the jobs left and the factories closed. (5) The establishment protected itself, but not the citizens of our country. Their victories have not been your victories. Their triumphs have not been your triumphs. And (6) while they celebrated in our nation's capital, there was little to celebrate for struggling families all across our land.

3. That all changes starting right here and right now, because this moment is your moment; it belongs to you. It belongs to everyone gathered here today and everyone watching all across America. This is your day. This is your celebration. And this, the United States of America, is your country.

4. The forgotten men and women of our country will be forgotten no longer. Everyone is listening to you now. You came by the tens of millions to become part of a historic movement, the likes of which the world has never seen before.

(下線部筆者)

まず、演説の冒頭で、(1) これまでワシントンDCにあった権力を国民へと移行することを“you”という呼びかけ語を用いて表明している。トランプの支持者は下層階級が多いと言われているが、労働者階級の人々に向けて、(自身は不動産王の名を持つ富裕層ではあるが)聞き手の立場に立ち、あなた方の不満を理解しています、という「共感」のメッセージを“you”という呼びかけ語を通して表している。

また、(2) 国民がつけを払ってきたこと、(3) ワシントンは繁栄したが、国民は富を共有していなかったこと、(4) 政治家は繁栄したが、仕事はなくなり、工場も閉鎖してしまったこと、(5) 支配者層は自分たちを守ったが、市民は守られなかったこと、(6) 首都（ワシントン）で祝杯をあげている間も、至るところで苦闘している家族にとって祝うべきことはほとんどなかったこと等を述べ政治に不平・不満を持つ支持者たちに対して実情を知らせている。

ラポールの保持は、呼びかけ語等のレジスターに反映されることが多いが、この場面における様相からも「ラポール保持の方向性」が読みとれる。ここでは主に多くの支持者に対する訴えであると考えられるので、改めて良好な関係を望むというよりは、これまでの関係の保持を意図しての表現であると考えられる

3.2 「アメリカの現実」

1. For many decades, (1) we've enriched foreign industry at the expense of American industry; (2) subsidized the armies of other countries, while allowing for the very sad depletion of our military. (3) We've defended other nations' borders while refusing to defend our own, and spent trillions and trillions of dollars overseas while America's infrastructure has fallen into disrepair and decay. We've made other countries rich while the wealth, strength and confidence of our country has dissipated over the horizon.

2. One by one, the factories shuttered and left our shores, with not even a thought about the millions and millions of American workers that were left behind. (4) The wealth of our middle class has been ripped from their homes and then redistributed all across the world.

(下線部筆者)

この場面では、(1) 私たちはアメリカ産業を犠牲にして外国の産業を豊かにした（結果としてアメリカの産業は二次的なものと考えられてきた）、(2) 他国の軍隊を援助する一方で、自国の国境を守ることを拒んできた（結果的にアメリカが犠牲になった）、(3) 何兆ドルもの額を海外につぎ込む一方、アメリカのインフラは荒廃し、崩壊の状態に陥った（結果的に他国ばかりが豊かになった）、(4) 中間層の富は、彼らの家庭からもぎ取られ、そして世界中にばらまかれた（結果的にアメリカ人の稼ぎを持って行かれた）と、攻撃的かつ排他的な表現を使用して国民にその実情を伝えている。（括弧内の意味は直接発言されたわけではないが、含意として読みとれる。）

また、いかにこれまでの状況が悲惨であったのかを国民に周知させようという意図がある。ここでは参与者間に対しての興味や関心の欠如から生ずる「ラポール無視的方向性」が働いたと認められるが、これは実際に興味、関心を寄せていないからではなく、実情を切実に周知させようとした結果、生じたと考えられる。

3.3 「アメリカ・ファースト」

1. But that is the past. And now, we are looking only to the future. We assembled here today are issuing a new decree to be heard in every city, in every foreign capital, and in every hall of power. (1) From this day forward, it's going to be only America first, America first.

2. America will start winning again, winning like never before. We will bring back our

jobs. We will bring our (2) borders. We will bring back our (3) wealth. And we will bring back our (4) dreams. We will build new (5) roads and highways and bridges and airports and tunnels and railways all across our wonderful nation. We will get our people off of welfare and back to work, rebuilding our country with American hands and American labor. We will follow two simple rules: (6) buy American and hire American.
(下線部筆者)

前パートはアメリカの現状を国民に改めて周知させ、その解決のためには全国民の団結が必要であると述べている場面であった。この場面は(1)まさに、今日この日からアメリカ・ファーストを掲げ、国民に団結を訴えかけている場面である。

具体的には、(2)「国境」、(3)「富」、(4)「夢」を取り戻すとし、(5)「新しい道」「幹線道路」、「橋」、「空港」、「トンネル」、「鉄道」をアメリカ各地に建設し、さらには、(6)アメリカ製品を買い、アメリカ人を雇い、国を豊かにさせるとも表明している。

ここで特筆すべき点は、具体的な物をイメージできるような、視覚に働きかけるような語彙を多用している点である。絵に描けるような具体的な名詞を列挙することで、抽象論に終始せず、聞き手である国民もイメージが湧きやすく、内容も理解しやすい。支持者とのラポールの維持、ストラテジーとしては、「ラポール保持的方向性」が働いていると考えられる。

3.4 「アメリカを再び偉大な国に」

1. Finally, we must think big and dream even bigger. In America, we understand that a nation is only living as long as it is striving. We will no longer accept politicians who are all talk and no action, constantly complaining, but never doing anything about it. The time for empty talk is over. (1) Now arrives the hour of action. Do not allow anyone to tell you that it cannot be done. No challenge can match (2) the heart and fight and spirit of America. We will not fail. (3) Our country will thrive and prosper again.

2. It's time to remember that old wisdom our soldiers will never forget: (4) that whether we are black or brown or white, we all bleed the same red blood of patriots. We all enjoy the same (5) glorious freedoms, and we all salute the same (6) great American flag. And whether a child is born in the urban sprawl of Detroit or (7) the wind-swept plains of Nebraska, they look up at the same night sky, they fill their heart with the same dreams, and they are infused with (8) the breath of life by the almighty creator.

3. So to all Americans in (9) every city near and far, small and large, from mountain to

mountain, from ocean to ocean, hear these words: You will never be ignored again. Your voice, your hopes, and your dreams will define our American destiny. And your courage and goodness and love will forever guide us along the way.

4. Together, (10) we will make America strong again. (10) We will make America wealthy again. (10) We will make America proud again. (10) We will make America safe again. And yes, together (10) we will make America great again.

(下線部筆者)

この場面では、「アメリカを再び偉大な国へ」という目的の下、「団結」を働きかけ、(1) 行動すべき時が来たと行動を促している。その様子を、(2) アメリカの心、闘争心、精神にかなうものではなく、(3) 再び繁栄するであろうと述べている。前パートでは、国全体にインフラ等が整備される様子が詳細に述べられていたので、繁栄の様子もイメージしやすい。

相手に合わせてラポールを構築する方法として、人間の感覚、具体的には、視覚、聴覚、触覚に訴えかける方法がある。人はコミュニケーションをとる場合、これらの感覚に依存する部分が少なからずあり、いずれかの1つに集中する傾向にある。いずれのモードであるかは、時と場合次第ではあるが、相手のモードを知り、それを反映することでラポールの構築にも影響を与えると考えられる。

相手が視覚モードである場合、同じ姿勢や、ミラーリング、同じ服装をすると効果が期待できる。また、視覚に訴えかけるような語彙選択、表現の使用が効果的であるとされている。聴覚モードである場合、話のテンポが均一的である等の特徴があるが、聴覚に訴えかけるようなことばづかい、実際、音を聞かせたり、音を想起させるようなことばづかいをすることで効果は期待できる。触覚モードの場合、話のテンポが非常にゆっくりであったり、感覚、触覚に焦点をあてたことばづかいをする傾向にある。この場合、感覚に訴えかける、感覚を想起させるような語彙選択、表現の使用が効果的である。

この場面では、(4)「肌の色が黒であろうと褐色であろうと白であろうと、私たちは皆、同じ愛国者の赤い血を流すということである」と「色」を意識するような表現を用い、(5)「輝かしい自由」と自由闊達な様子、感情を想起させ、感覚に訴えかける表現を使用している。また、(6)「偉大なるアメリカ国旗」という表現からは、星条旗の下でアメリカ国民が団結する様子が視覚的にも想起される。(7)「風にさらされたネブラスカの草原」という表現からは、平野に吹きすさぶ風の様子が、(8)「命の息吹」という表現からは、生命が懸命に生きようとする活動の様子が聴覚に訴えかけてくる様子が認められる。(9)「山から山へ、海から海へ」という表現からは、山岳地帯に住む人々、港町に住む人々等、広大なアメリカの自然描写を交えて、視覚的に受ける印象が強い。この場面では、支持者に対してはこれま

でと同様、またより強固な信頼関係の構築のため「ラポール保持的方向性」を働かせていると分析できる。

一方で、大統領「候補」として選挙戦中は敵として戦ってきた人たちとも、正式に大統領に就任した今、新たにラポールを構築し「団結」していくことが望ましいのは言うまでもない。ゆえに、これらの人々に対しては「ラポール増進的方向性」を働かせていると考えられる。演説も終盤であるため、大統領の思いもより強く表れている部分でもある。アメリカ・ファーストを掲げ、偉大なアメリカを再び目指すためには国民の団結が必要不可欠である。ラポールの方向性は、それぞれが独立的に作用しているのではない。ラポール増進的方向性と、ラポール挑戦的方向性は相反するが、その他の方向性は補完的に作用することでより望ましいラポールが構築できると考えられる。

また、包含の“we” (inclusive we) を用いることで、強固な共感を導くと考えられる。連帯感、一体感をも感じ取れる。

4.まとめ

本稿では、ラポールの方向性という概念をもとにトランプ大統領の就任演説を分析した。全体を通して、「国民のための国づくり」の場面では、「ラポール保持的方向性」を、「アメリカの現実」の場面では、アメリカの現状を周知させることを重視していると考えられるため、結果的に「ラポール無視的方向性」を、「アメリカ・ファースト」の場面では、団結を呼びかけるためには、国民の理解が必要不可欠である。その結果的「ラポール増進的方向性」が、「アメリカを再び偉大な国に」の場面では「ラポール増進的方向性」に加え、「ラポール保持的方向性」も働いていると分析できた。

ラポール構築の方法として視覚、聴覚、触覚などの感覚に訴える方法がある。演説の終盤、トランプ大統領はまさに、この感覚に訴えかける表現を用いて、ラポールの構築を目指した姿勢が認められる。スピーチのような「一対多」という場合、より包括的、複合的に働きかけることで良好なラポール関係が構築できると考えられる。ラポールの方向性はそれぞれ、言語行為の中で独立的に認められるのではなく、今回の最終段落のように、複合的に認められることもある。

トランプ大統領就任演説全文

国家の再建に向けて

1. Chief Justice Roberts, President Clinton, President Bush, President Obama, fellow Americans and people of the world, thank you.
2. We, the citizens of America, are now joined in a great national effort to rebuilt our

country and restore its promise for all of our people. Together, we will determine the course of America and the world for many, many years to come. We will face challenges, we will confront hardships, but we will get the job done.

国民のための国づくり

3. Every four years, we gather on these steps to carry out the orderly and peaceful transfer of power, and we are grateful to President Obama and First Lady Michelle Obama for their gracious aid throughout this transition. They have been magnificent. Thank you.
4. Today's ceremony, however, has very special meaning, because today we are not merely transferring power from one administration to another or from one party to another, but we are transferring power from Washington, D.C. and giving it back to you, the people.
5. For too long, a small group in our nation's capital has reaped the rewards of government while the people have borne the cost. Washington flourished, but the people did not share in its wealth. Politicians prospered, but the jobs left and the factories closed. The establishment protected itself, but not the citizens of our country. Their victories have not been your victories. Their triumphs have not been your triumphs. And while they celebrated in our nation's capital, there was little to celebrate for struggle families all across our land.
6. That all changes starting right here and right now, because this moment is your moment; it belongs to you. It belongs to everyone gathered here today and everyone watching all across America. This is your day. This is your celebration. And this, the United States of America, is your country.
7. What truly matters is not which party controls our government, but whether our government is controlled by the people. January 20th, 2017 will be remembered as the day the people became the rulers of this nation again.
8. The forgotten men and women of our country will be forgotten no longer. Everyone is listening to you now. You came by the tens of millions to become part of a historic movement, the likes of which the world has never seen before.
9. At the center of this movement is a crucial conviction that a nation exists to serve its citizens. Americans want great schools for their children, safe neighborhoods for their families, and good jobs for themselves. These are just and reasonable demands of righteous people and a righteous public.

アメリカの現実

10. But for too many of our citizens, a different reality exists: mothers and children trapped in poverty in our inner cities; rusted-out factories scattered like tombstones across the landscape of our nation; an education system flush with cash, but which leaves our young and beautiful students deprived of all knowledge; and the crime and the gangs and the drugs that have stolen too many lives and robbed our country of so much unrealized potential.
11. This American carnage stops right here and stops right now. We are one nation, and their pain is our pain. Their dreams are our dreams. And their success will be our success. We share one heart, one home, and one glorious destiny. The oath of office I take today is an oath of allegiance to all Americans.
12. For many decades, we've enriched foreign industry at the expense of American industry; subsidized the armies of other countries, while allowing for the very sad depletion of our military. We've defended other nations' borders while refusing to defend our own, and spent trillions and trillions of dollars overseas while America's infrastructure has fallen into disrepair and decay. We've made other countries rich while the wealth, strength and confidence of our country has dissipated over the horizon.
13. One by one, the factories shuttered and left our shores, with not even a thought about the millions and millions of American workers that were left behind. The wealth of our middle class has been ripped from their homes and then redistributed all across the world.

アメリカ・ファースト

14. But that is the past. And now, we are looking only to the future. We assembled here today are issuing a new decree to be heard in every city, in every foreign capital, and in every hall of power. From this day forward, it's going to be only America first, America first.
15. Every decision on trade, on taxes, on immigration, on foreign affairs will be made to benefit American workers and American families. We must protect our borders from the ravages of other countries making our products, stealing our companies and destroying our jobs. Protection will lead to great prosperity and strength. I will fight for you with every breath in my body and I will never ever let you down.
16. America will start winning again, winning like never before. We will bring back our

jobs. We will bring our borders. We will bring back our wealth. And we will bring back our dreams. We will build new roads and highways and bridges and airports and tunnels and railways all across our wonderful nation. We will get our people off of welfare and back to work, rebuilding our country with American hands and American labor. We will follow two simple rules: buy American and hire American.

17. We will seek friendship and goodwill with the nations of the world, but we do so with the understanding that it is the right of all nations to put their own interests first. We do not seek to impose our way of life on anyone, but rather to let it shine as an example. We will shine for everyone to follow. We will reinforce old alliances and form new ones and unite the civilized world against radical Islamic terrorism, which we will eradicate completely from the face of the earth.
18. At the bedrock of our politics will be a total allegiance to the United States of America, and through our loyalty to our country, we will rediscover our loyalty to each other. When you open your heart to patriotism, there is no room for prejudice.
19. The Bible tells us how good and pleasant it is when God's people live together in unity. We must speak our minds openly, debate our disagreements honestly, but always pursue solidarity. When America is united, America is totally unstoppable.
20. There should be no fear. We are protected, and we will always be protected. We will be protected by the great men and women of our military and law enforcement. And most importantly, we will be protected by God.

アメリカを再び偉大な国に

21. Finally, we must think big and dream even bigger. In America, we understand that a nation is only living as long as it is striving. We will no longer accept politicians who are all talk and no action, constantly complaining, but never doing anything about it. The time for empty talk is over. Now arrives the hour of action. Do not allow anyone to tell you that it cannot be done. No challenge can match the heart and fight and spirit of America. We will not fail. Our country will thrive and prosper again.
22. We stand at the birth of a new millennium, ready to unlock the mysteries of space, to free the earth from the miseries of disease, and to harness the energies, industries and technologies of tomorrow. A new national pride will stir ourselves, lift our sights, and heal our divisions.
23. It's time to remember that old wisdom our soldiers will never forget: that whether we are black or brown or white, we all bleed the same red blood of patriots. We all enjoy

the same glorious freedoms, and we all salute the same great American flag. And whether a child is born in the urban sprawl of Detroit or the wind-swept plains of Nebraska, they look up at the same night sky, they fill their heart with the same dreams, and they are infused with the breath of life by the almighty creator.

24. So to all Americans in every city near and far, small and large, from mountain to mountain, from ocean to ocean, hear these words: You will never be ignored again. Your voice, your hopes, and your dreams will define our American destiny. And your courage and goodness and love will forever guide us along the way.

25. Together, we will make America strong again. We will make America wealthy again. We will make America proud again. We will make America safe again. And yes, together we will make America great again.

26. Thank you. God bless you. And God bless America. Thank you. God bless America.

注

(1) フェイスとは、誰もが持つ「自己像」であり (1) ポジティブ・フェイス (positive face) と、(2) ネガティブ・フェイス (negative face) とがある。ポジティブ・フェイスとは「誰かに理解されたい」、「仲間として認められたい」、「他者との距離を縮めたい」という欲求である。他方、ネガティブ・フェイスとは「他者に立ち入ってほしくない」、「自分の行動を邪魔されたくない」、「他者と距離をおきたい」という欲求である。

(2) 次の感謝 (expression of gratitude) を表す発話を例に挙げて分析する。

Thanks ever so much for lending me your car. It was really extremely kind of you, and I very much appreciate it. If I can ever help you out like that, be sure and let me know.

発話には一連の発話の持つ発語内効力 (illocutionary force) を伝える、中核行為 (head act) があり、それに伴う付加的構成要素がある。

Thanks ever so much for lending me your car. 中核行為

It was really extremely kind of you, 相手に対する賞賛

and I very much appreciate it. 評価表現

If I can ever help you out like that, be sure and let me know. 返済/お返しの約束

このような複数の発話からなる発話行為を分析する1つの方法は、主要な意味的構成要素を調べることであった。

参考文献

東 照二 (2006) 『歴代首相の言語力を診断する』 東京：研究社.

東 照二 (2010) 『選挙演説の言語学』 東京：ミネルヴァ書房.

Brown, Penelope, Levinson C. Stephen (1978) *Politeness Some universals in languageUsage*. Cambridge: Cambridge University Press. (『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』) 田中典子 監訳 齋藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子 訳 東京：研究社.

Holt, Elizabeth, Clift, Rebecca (2007) *Reporting Talk*. Cambridge: Cambridge University Press.

伊藤達也・松倉信幸・市島清貴 (編) (2016) 『言語コミュニケーションのこれから』 東京：朝日出版社.

Leech, Geoffrey (2014) *The Pragmatics of Politeness*. Oxford: Oxford University Press.

パトリック・ハーラン (2016) 『大統領の演説』 東京：株式会社KADOKAWA.

Spencer Heren-Oatey (2004) *Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across Cultures*. The Continuum Publishing Company. (『異文化理解の語用論』) 浅羽亮一 監修 田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・熊野真理・福島佐江子 訳 東京：研究社.

Language Expressions and Rapport Management Strategies Used in Donald Trump's Inaugural Speech

SHIBUSAWA, Yusuke

On January 20th 2017, Donald John Trump became the 45th president of the United States. He had never held political office, and was from the business world. Although his repeated abusive language is problematic, he assumed the presidency under the slogan of "America first" in his inaugural address.

On the other hand, he has called immigrants from Mexico criminals, and has indicated his intent to build a wall near the American border with Mexico. His use of abusive language might become a risk factor. However, he appeals with this policy to the frustrated public. Finally, he has turned the tables in the end.

Prescriptively, in his inaugural address, the president also appealed to the public who did not support him during the election campaign by showing certain policies. But his speech was thought to be similar to during the campaign. Language behavior can influence a social situation, and the behavior can form favorable relationship and vice versa.

First of all, I set up a fundamental concept to establish rapport, especially in this paper. I tried to analyze the speech in terms of rapport management, which is illustrated by Helen Spencer-Oatey (2004) .

Communicative roles in language behavior are not only to transfer information, but also to maintain and, control social relationships. To form a trusting inter-personal relationship, applicable communication skills are required. One of these skills is rapport.

Rapport is a situation where we form a good relationship, trust each other, or understand the other side. By establishing rapport, we can build beneficial involvement. In general, (1) observing the other side carefully, (2) finding common ground, (3) taking a compassionate view, and (4) showing the other side of sharing the consciousness and experiences of others are required to establish rapport.

Politeness theory is also heavily involved in establishing harmonious relationships. Brown and Levinson (1987) proposed principles of politeness, which influences this field still today. The key concept of their theory is face, which means self-conception. By holding the

face of the participants, we can communicate more effectively. Face management can also be a part of rapport.

Brown and Levinson point out that language behaviors can threaten face itself, and behavior can affect it accordingly. Helen Spencer points out that we can recognize four types of rapport orientations, which are (1) rapport-enhancing orientation (2) rapport-maintenance orientation, (3) rapport-neglect orientation, and (4) rapport-challenging orientation. Rapport orientations are strategies for us to communicate effectively. In this paper, I analyzed President Trump's speech in terms of these rapport orientations, that are sufficiently shown.